

イカナゴ情報 No.1 (2020年5月)



令和2年5月28日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 佐藤・堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

海洋観測: 漁場 (水深40~80 m) の底層水温は北部で前年より高く、南部で同程度

宗谷海峡東方海域において5月26~27日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました(図1)。観測ラインの水温鉛直断面図をみると、ラインAではオッタートロールの主漁場となるIS02より沖側(水深40 m以深)の海域は水温6°C以下の水塊が占めていました。ラインB、Cではかけまわしの主漁場となるIS11やIS14より沖側(水深50 m以深)では水温8°C以下の水塊が漁場全体を占めていました(図2)。2020年度の底層水温の分布をみると、昨年と比べて、宗谷暖流の勢力が弱く、また沖側の冷水帯の張り出しも弱いため、沿岸と沖合の水温差は昨年よりも小さくなっていました(図3)。2020年度のイカナゴ漁場(水深40~80 m)の底層水温は、2019年度と比べて、オッタートロールの主漁場に近い北側では1°C程度高く、かけまわしの主漁場に近い南側は同程度の水温でした。

魚探観測: 水深50~80 mの海域にイカナゴ類とみられる反応を多数確認

海洋観測と同じラインで実施した魚探観測では、ラインAにおいてIS01付近(水深50 m)とIS03(水深75 m)付近の海底直上に魚群反応が多数観察され、魚群形状とトロール調査の結果から、いずれもイカナゴ類と推定されました(図4)。ラインBのIS10~IS11付近(水深50~75 m)の海底直上にもイカナゴ類とみられる魚群を複数確認しました。ラインCでは目立った魚群は確認できませんでした。

漁獲物組成: 体長22~24 cmが中心

ラインAのIS02東(水深70 m付近)で、オッタートロールによりイカナゴ類を採集しました。標本の体長は22~24 cmの個体が多く、2019年度調査で優占した魚群が引き続き主体と考えられます(図5)。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる (Orr *et al.*, 2015)

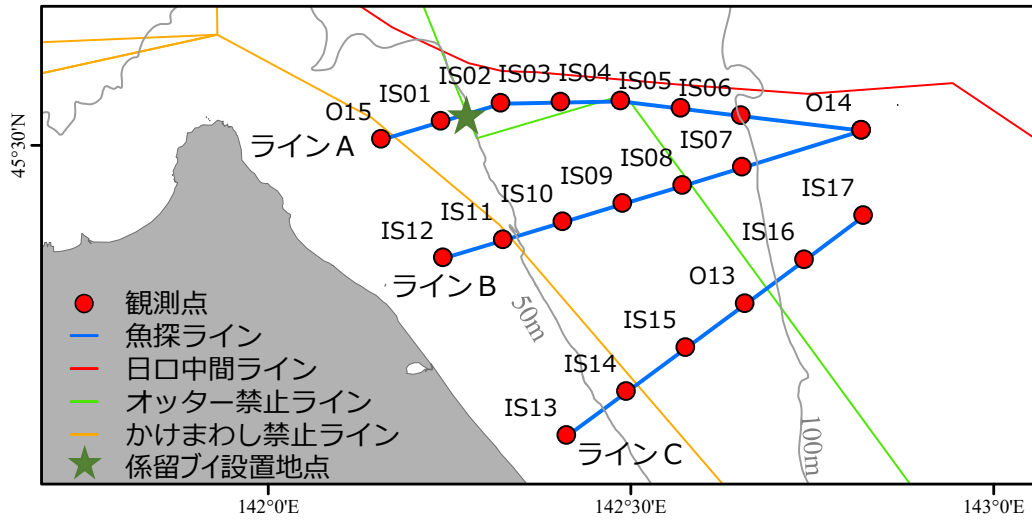


図1. 海洋観測・魚探観測ラインの位置.

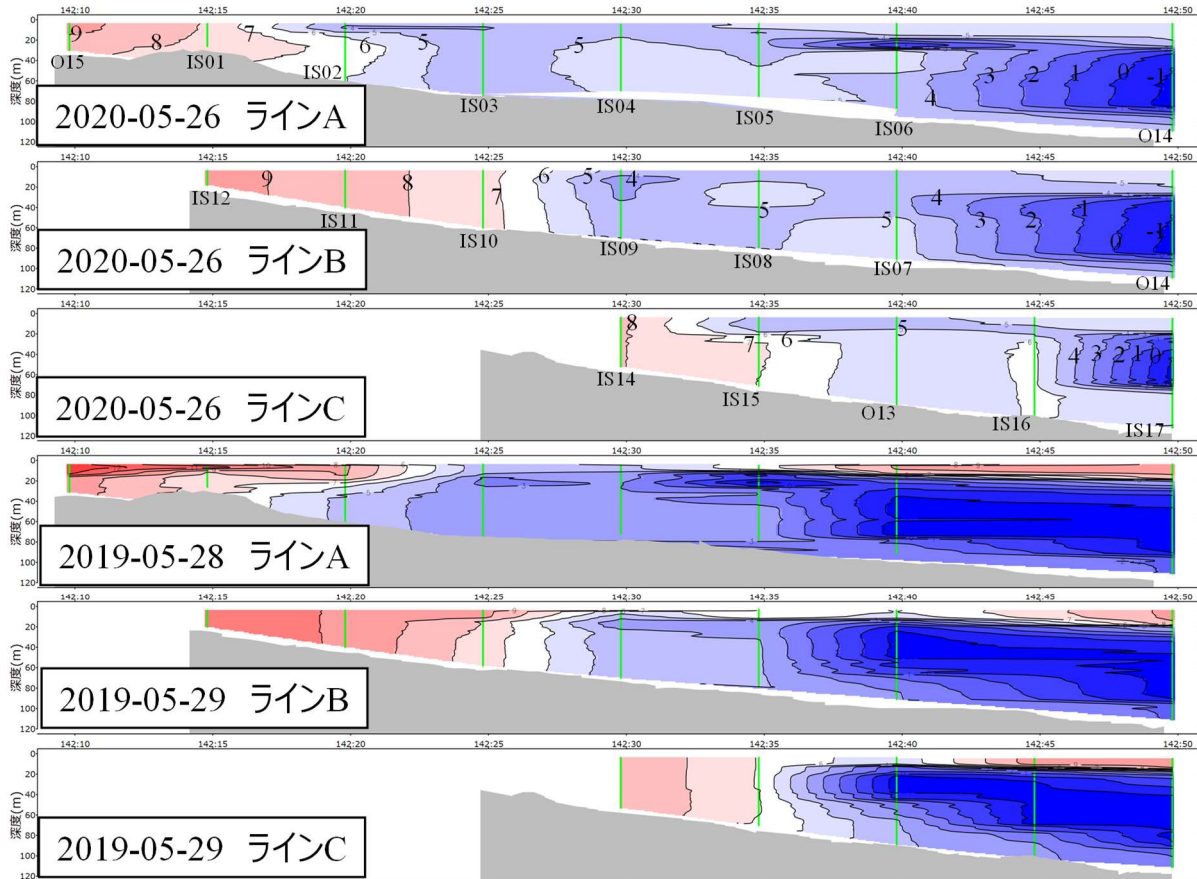


図2. 2019・20年の各調査ラインの水溫鉛直分布. IS13(ラインC)は兩年とも欠測.

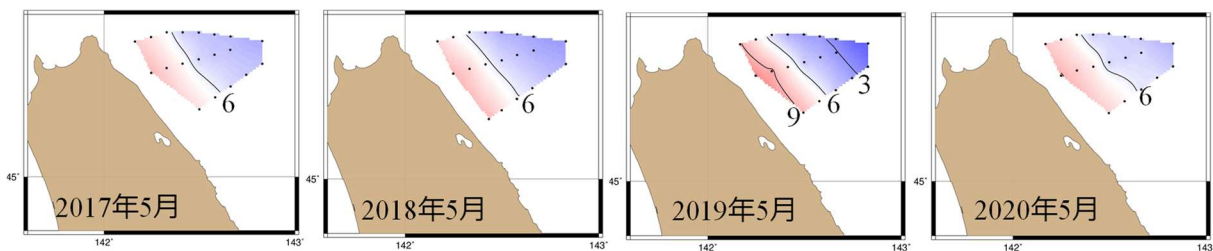


図3. 2017~20年の調査海域における底層水溫の水平分布.

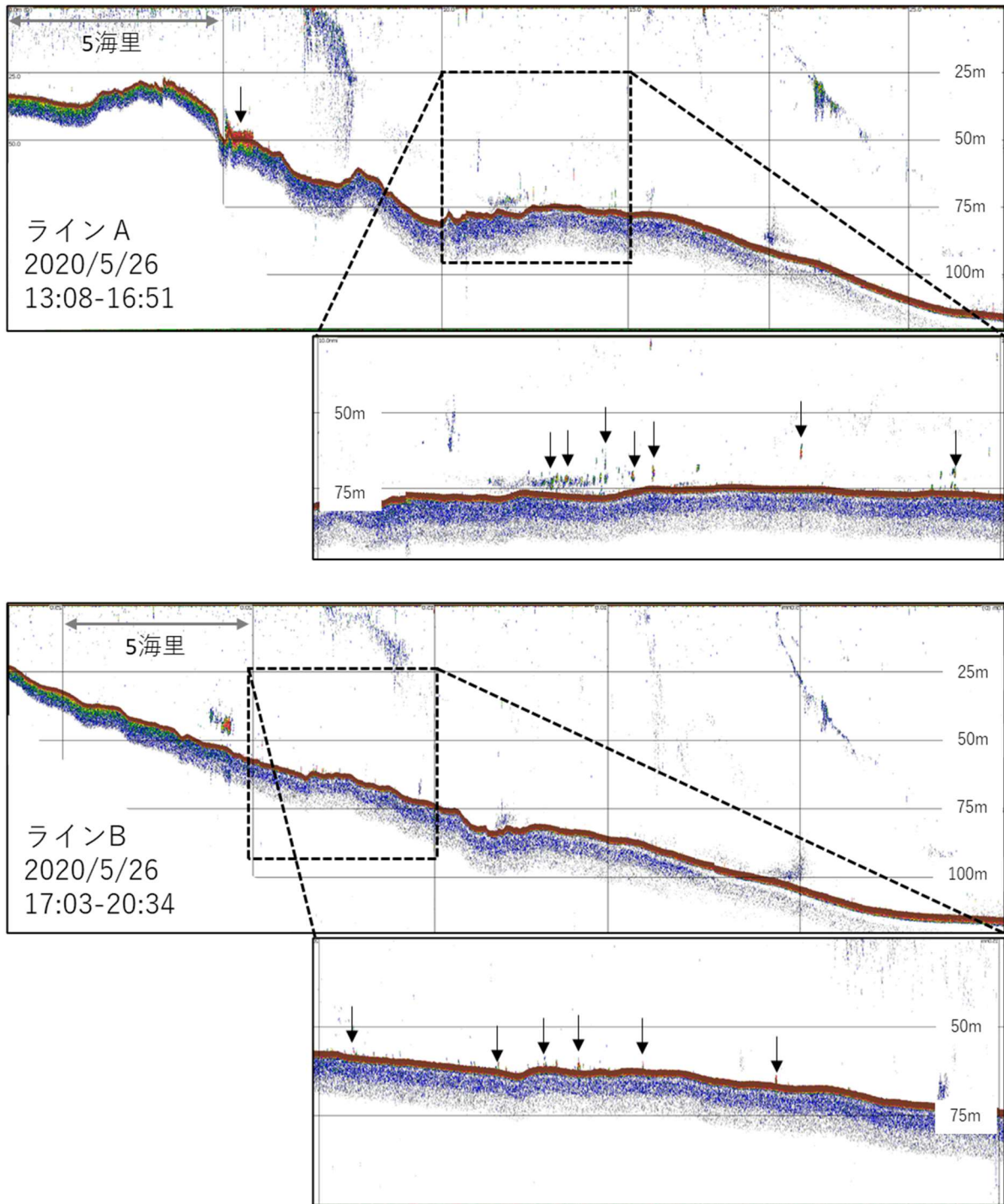


図4. 観測ラインAおよびBにおける魚探反応. 各下図は各上図中黒枠内の拡大図. 拡大図中のイカナゴ類とみられる魚群反応を黒矢印で示した。

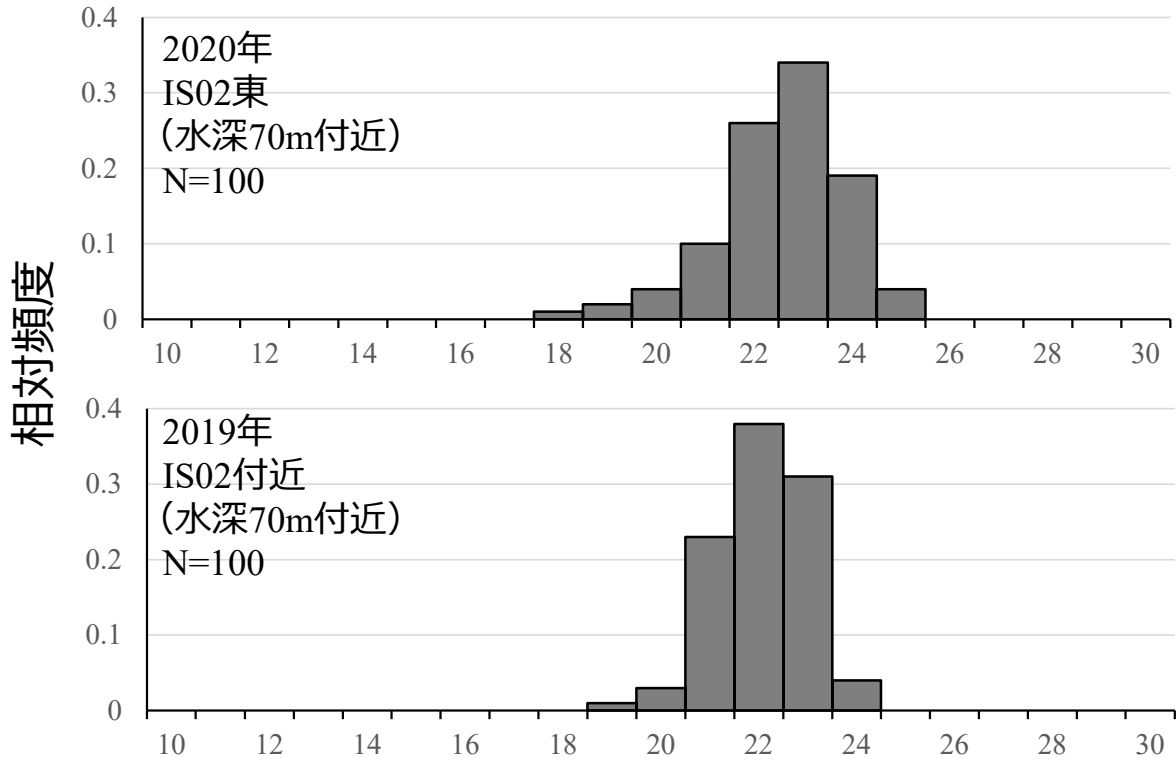


図5. オッタートロールで採集したイカナゴ類の体長組成.

リアルタイム水温ブイの設置

IS01 付近 (図1: ★) に係留ブイを設置し漁場付近の水温をリアルタイムで確認できるようになりました。下記の方法で閲覧することができます。

①右のURLやQRコードから「ユビキタスブイ」のHPを開き、宗谷地方を選択

M E N U ユビキタスブイシステム http://www.buoy.jp/buoy/buoy_html/

- 宗谷地方 ユビキタスブイシステム JellyFish のページへようこそ。
このページでは、ユビキタスブイによる多点多層のリアルタイム水温を掲載しています。
- 留萌地方
- 網走地方 ※本ページ内の写真やグラフなどは、無断転載を固くお断りいたします。
- 根室地方 ※本ページに関するお問い合わせは、[畑中](#)か[和田](#)までご連絡ください。
- 日高地方
- 胆振地方
- 後志地方

Copyright (c) Wada Lab., Future University, Hakodate. All rights reserved.

M E N U センサIDを指定してください ※

- リアルタイムグラフ 稚内水産試験場2(08020975423) 検索
- グラフ描画
- バッテリー残量
- データ一覧
- 携帯電話用
- Mobile Phone
- HOME

②リアルタイムグラフから
稚内水産試験場2を選ぶ

